中島平太郎さんを偲ぶ会

NH ラボ株式会社

高田 寛太郎

1. はじめに

去る 6 月 25 日(月)、12：00 から 14：00 まで故中島平太郎さんを偲ぶ会が開かれた。場所はホテル雅叙園東京、2 階華つどいの間。

日本オーディオ協会の校條 亮治前会長が中島平太郎さんを偲ぶ会を発案し、校條 亮治氏、森 芳久氏、倉持 誠一氏、君塚雅憲氏、筆者の 5 人で偲ぶ会準備のために初会合を持ったのは 2 月 27 日。その後、ソニー秘書部の高野 章氏が加わり、世話人 17 人を決め、具体案を企画した。開催は 6 月 25 日とし、案内状を 4 月 18 日付で発信した。

写真 1　中島平太郎さん

会は基本的に有志の集まりで、中島さんと交流のあった様々な方面の方々が参加されたが、日本オーディオ協会、NHK、日本音響学会、レコーディング業界、出版社、ソニー、太陽誘電、ビフレステック、三菱ケミカルなどの関係者が大半を占めた。

発起人は出井 伸之氏（元ソニー会長）を代表とする 12 名。世話人 17 名、事務局 1 名、受付 5 名、記念品・写真集デザイナー1 名、装花デザイナー1 名、カメラマン 1 名、VIP アテンダント 1 名、MC2 名の総勢 41 名。それにゲストスピーカ 10 名および資料の提供や編集で数名の方のご協力を得た。（注 1）

冒頭から余談で恐縮だが、図 1 は会への参加申し込み者数の履歴を示す。4 月前半の受付開始から締め切りの 6 月 5 日までほぼ単調になめらかに増加し、目標の 150 名は締め切り数日前に到達し、さらに会の前日まで増加しつづけた。これは世話人の方々の着実な案内で情報が自然に広まっていったことと、案内を受けた方々があまり間を置かずに申し込まれたことを意味していると思う。198 名の参加申込みで当日欠席された方は 9 名。数多くのお別れ会を運営した経験者から、「このような会としての参加率は驚異的」と評された。

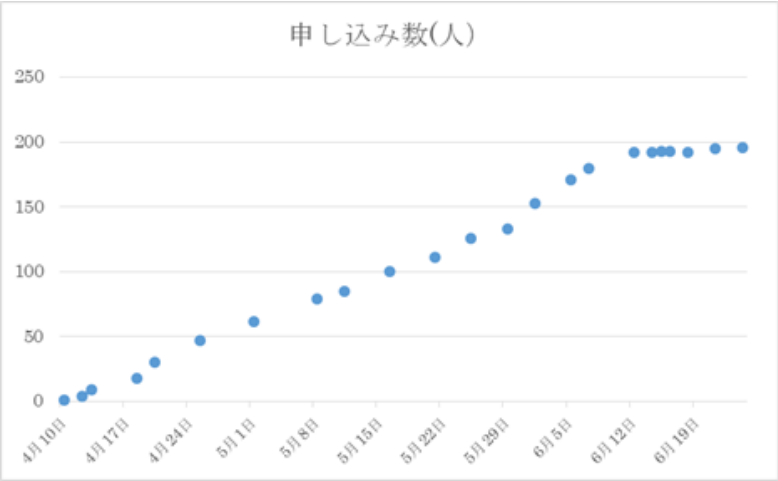

図 1　参加申し込み数の推移

2.　式次第

進行プログラムを次に示す。偲ぶスピーチでは中島さんが JAS ジャーナルに連載された回顧録「音との付き合い 70 年」（注 2）の流れに沿って、関連した方々に思い出やエピソードを紹介していただいた。

オープニング　（12：00～12:30）

- 黙祷
- 写真集の映写
- 発起人代表挨拶　出井 伸之氏 元ソニー株式会社会長、クオンタムリープ株式会社 CEO
- 発起人挨拶　校條 亮治氏 日本オーディオ協会前会長、現理事
  小川 理子氏 日本オーディオ協会会長、パナソニック株式会社執行役員
- 献杯　山﨑 芳男氏 早稲田大学名誉教授

中島平太郎さんを偲ぶスピーチ（12:30～13：50）

- 安藤 彰男氏　元 NHK 放送技術研究所、富山大学教授、日本音響学会会長
- 穴澤 健明氏　元日本コロムビア株式会社取締役、ビットメディア株式会社顧問
- 髙山 峋氏　元ソニー株式会社技師長
- 土井 利忠氏　元ソニー株式会社取締役・ソニーコンピュータサイエンス㈱社長
- 水島 昌洋氏　元ソニー株式会社開発推進室
- 西 美緒氏　元ソニー株式会社業務執行役員上席常務、西美緒技術研究所所長
- 「スタート・ラボ創立 15 周年記念ビデオ」（抜粋）紹介
- 小川 博司氏　元ソニー株式会社主幹研究員、サルーステック株式会社社長
- 浜田 恵美子氏　元太陽誘電株式会社、日本ガイシ株式会社取締役
- 井深 亮氏　元ソニーPCL 専務、MI ラボ株式会社取締役
- 茶谷 郁夫氏　元ソニー株式会社、NH ラボ株式会社取締役

クロージング　（13：50～14：00）

- ご遺族代表挨拶　中島 晃氏　NH ラボ株式会社代表取締役
- 世話人代表挨拶　森 芳久氏　元ソニー株式会社

3.　会当日

受付は 11：20 開始。オーディオ協会照井 和彦氏ほか 5 名のソニー関係者が受付を担当。参加者の名前と会場の着座テーブルを記した名札が用意された。（作成　世話人滝瀬 忠氏）

入口の小さな祭壇。遺影とたまご形スピーカ、マイクロホン C-37A、そして装花。皆さん遺影にご挨拶して会場内に。

写真 2　受付 6 人衆

写真 3　入口の遺影、お花、ゆかりの品

会は立席方式ではなくテーブルに着座の形とした。そのため、予めの席決めは会進行の大切なファクターと考え、世話人の度重なる話し合いで決められた。10 人掛けの丸テーブルが 20 台用意された（図 2）。

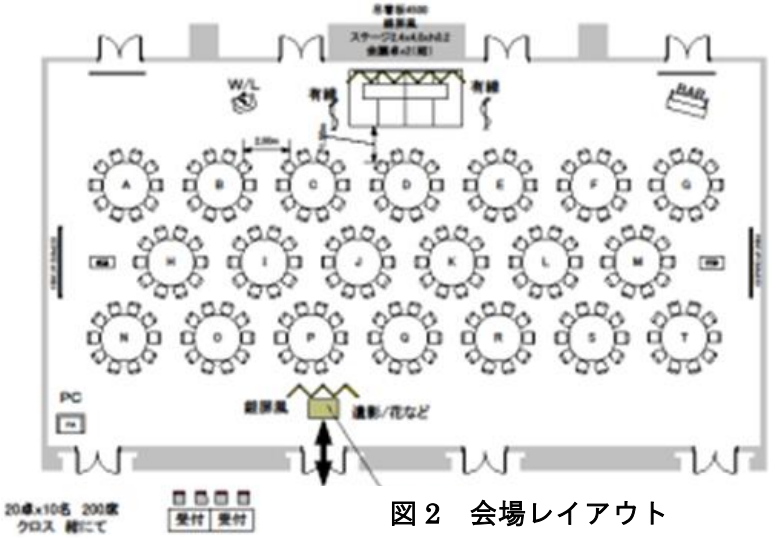

図 2　会場レイアウト

写真 4　華つどいの間

会場内正面中央に祭壇が設けられ、中島さんのご遺影と装花、そしてゆかりの品物（CDP-101、たまご形スピーカ NH-W1 ほか）が飾られた。

写真 5　会場の祭壇と遺影

写真 6　装花

二つの装花には CD ディスクも素材としてあしらわれた。（制作　前田 悠衣氏）

4.　式次

12：00。大久保 忠彦氏、風間 道子氏の司会で会が始まり、まず中島さんのご冥福を祈って黙祷が捧げられた。

写真 7　司会者（大久保 忠彦氏、風間 道子氏）

写真 8　　黙祷

有志の提供による中島さんの写真をスライドショーにして大型スクリーンに投影した。同じものを記念品（注 3）にも用意した。20 代の若さみなぎる写真から晩年になってなお研究を続けられている姿まで、中島さんの人生の様々な場面が描かれている。（制作　田村 進一郎氏）

写真 9　写真集　タイトルページ

写真 10　写真集を見る参加者

4.1.　オープニングスピーチ

✧ 発起人代表挨拶 出井 伸之氏

ソニーでオーディオ事業部長のころ中島さんが開発した CD をビジネスの中心に据え、その規格を元にどうやって魅力ある商品を作るか、大いに苦労した思い出を語る。昔のスピーカ SS-G7 でステレオを楽しんだ話や、クオンタムリープの CEO になってからも中島さんの活動に興味を持ち、たまご形スピーカも購入した。しかし少し価格が高い、とちょっぴりご批判も。

同じくソニーの事業部長の時には電子楽器の商品化も企画し中島さんにも相談したが、残念ながら実現しなかった。

写真 11　出井 伸之氏

✧ 校條 亮治氏挨拶

写真 12　校條 亮治氏

昨年 12 月、中島さんご逝去後偲ぶ会をビフレステック㈱前社長 故井橋 孝夫氏とともに計画。しかし、井橋氏が年明け病気で突然倒れ、1 ヶ月以上の闘病の末帰らぬ人となった経緯を紹介し、今回の偲ぶ会への思い入れを熱く語った。また、校條氏を引き継いだ JAS の新会長小川 理子氏を紹介。

✧ 小川 理子氏挨拶

パナソニック㈱執行役員、アプライアンス社副社長、技術本部長、テクニクス事業推進室長を担当している。

学生時代は LP レコードを楽しむアナログ派だった。就職して最初の給料で普及しつつあった CD を購入した。

今回 JAS の会長に就任、協会の発展に寄与したい。

写真 13　小川 理子氏

4.2.　献杯

✧ 山﨑 芳男氏によるスピーチと献杯のご発声

写真 14　山﨑 芳男氏　スピーチと献杯

1960 年代後半、学生運動で大学のキャンパスが使用できず、修士課程の卒業研究は NHK 技研で行った。その時中島さんと出会った。卒研は音声合成の SN 比改善がテーマだったが短期間で目標を達成し、その後業務用 VTR を使った PCM 録音機の開発に加わり、世界で最初のレコーダを開発した。卒業後 NHK への就職も考えたが、落ち着いてきた大学での研究の道を選んだ。

中島さんは 1981 年～1983 年に音響学会の会長を務められたが、自分も同じ会長の仕事を 2003 年～2005 年に務めた。次世代オーディオプロジェクトの中で中島さんと超電導スピーカを研究し、20%程度の変換効率に達したが、実用化の夢は果たせなかった。

写真 15　食事風景

4.3.　中島さんを偲ぶスピーチ

回顧録に沿って思い出やエピソードをお話しいただいた。

✧ 安藤 彰男氏

写真 16　安藤 彰男氏

ソニーの C38 マイクロホン発売 38 周年記念式典に出席し、中島さんと一緒にソニー・太陽(株)を見学した。

NHK 技研の部長に就任した際には、「単なるマネージャーではなく、プレイングマネージャーになるよう」勧められ、大変参考になった。

日本音響学会ではオーディオに関する調査研究委員会を立ち上げた。中島さんの意思を継ぎ、学会におけるオーディオ関連の研究を促進したい。

写真 17　穴澤 健明氏

✧ 穴澤 健明氏

CD の発売が迫った時期 1981 年にもなると多くの社内外の方々より最初に世に出す CD に「新世界」をぜひ加えて欲しいとのご要望をいただいていた。「新世界」が新しいメディアにふさわしいとの考えから出てきた要望であったが、中島氏はこの曲がお好きであったようである。

この 1981 年には、チェコフィルの本拠でスメタナ弦楽四重奏団によるベートヴェンの弦楽四重奏団の全曲録音プロジェクトが行われていた。1947 年の結成時のメンバー一人であってチェコフ

ィルの最高責任者も務めていたノイマンが録音会場に偶然現れ、第 11 番の「セリオーソ」に耳を傾けていた。また「新世界」かと新世界の演奏に飽きが来ていたノイマンはデジタル録音や CD の能書きを質問しつつ、「セリオーソ」は私の最も好きな曲だと言って「新世界」に取り組むようになったノイマンの表情がいまだに忘れられない。中島氏への恩返しにもなったと思っている。

✧ 高山 峋氏

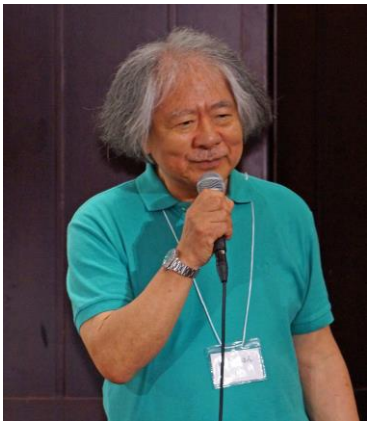

写真 18　高山 峋氏

中島さんは岸 源也先生と並ぶ恩師。設立直後の技研で約 4 年半薫陶を頂き固定ヘッド型レコーダの開発に携わった。市販の 13 ビット DAC を用いて逐次比較型 ADC を開発した。モノトニシティ―の確保に DAC の MSB 電流・電圧の調整が、小信号時の歪改善にディザーが不可欠だった。完成した試作機（２インチ幅１４インチリール×２のデッキとラック 1 本の信号処理系）を日比谷公会堂に持ち込み松原緑さんのピアノ演奏を収録した。ドロップアウトによるノイズは 1 時間に数個だったと思う。’75 夏に厚木移動となる際は「社長に手を回されたから」と中島さんに引導を渡された。厚木移動後は業務用ビデオ機器開発の傍ら、萩本 晴彦著「赤坂短信」にあやかり、「厚木短信」というレポートを発行していた。

✧ 土井 利忠氏

写真 19　土井 利忠氏

NHK から移ってこられた中島さんは、すぐに固定ヘッド方式の PCM 録音機の試作を命じたが、これが社内で評判が悪く、「俺は PCM をやって NHK を首になったけど、今度はソニーも首になりそうだ」と嘆いておられた。そこで発表前のベータマックスの資料を取り寄せて検討をしているときに、伊賀 章がそれを見て PCM-1 の開発を提案してきたのがすべての始まり。

所長室で酒を飲んだことや、「無条件の受容」で接する中島さんのマネジメントスタイルの暖かさや居心地の良さなどが懐かしい。その後「無条件の受容」は、部下が創造力を発揮する源泉であることを発見した。いま天外塾という経営塾をやっているが、中島さんのマネジメントがベースの一つになっている。

写真 20　水島 昌洋氏

✧ 水島 昌洋氏

中島さんはデジタルオーディオディスクの標準化を進めるた

め、業界トップと相談し、1978 年には DAD 懇談会を設立。

1979 年 3 月下旬フィリップスは CD のプロトタイプを国内有力メーカにデモしたが、反応したのはソニーのみ、これはトップの即断だった。他社は Wait and See.

ソニーの申し入れでスタートした共同開発協議は、1979 年 8 月から翌年 6 月まで、アイントホーヘンと東京で交互に都合 6 回開催された。中島さんはこの会議に、ソニーの代表として毎回出席。私も中島さんの補佐役として参加した。話し合いはほぼ順調に進んだが、1980 年 3 月の最終段階で、変調方式で２社の技術者が鋭く対立し、話し合いは膠着状態になった。

中島さんは、フィリップスからの技術者抜きの話合いの申し入れを受け入れ、フィリップスの提案の一部採用を決断され、両社は最終的に合意でき、1980 年 6 月に DAD 懇談会に共同提案することができた。

✧ 西 美緒氏

写真 21　　西 美緒氏

中島さんは“音”に関しては全く素人の私に徹底的にご教示下さいましたが、もう一つ、健康長寿のコツを、ご自身の実践を通してご伝授頂きました。それは適度の酒と運動です。私はその教えを金科玉条として、運動は毎日ウォーキングをやっていますし、酒も度を過ごさぬよう、一週間に七日を限度としています。この二つを守って、私も長寿を全うしたいと思っています。

✧ 小川 博司氏

CD 本体の開発が終わり、MO（光磁気ディスク）の開発を始めていたある日、一時、アイワに移られていた中島さんから連絡があり、中島さんの部屋でお会いしたのが、太陽誘電の石黒 隆さんと浜田 恵美子さん。そこで CD-R の原型となる試作ディスクを始めて見た。中島さんは、すでに発売している CD プレーヤで再生でき、かつ記録できるディスクに執念を燃やされており、それから、本当の互換を達成するまでは大変だった。チームを組んだソニーと太陽誘電のエンジニアの人たちのハードワークはもちろんだが、パイオニア、Sonic Solusions の協力が得られなければ、商品レベルには達しなかった。

写真 22　小川 博司氏

✧ 浜田 恵美子氏

写真 23　　浜田 恵美子氏

CD-R は、中島さんならではのアドバイスにより「完全互換」にターゲットを絞って太陽誘電で開発したもの。著作権では苦労もしたが、その交渉からスタート・ラボを通じた事業化もすべて引き受けてくださった。狙いに妥協はしないが、実現力もすばらしい方でした。

写真 24　井深 亮氏

✧ 井深 亮氏

エムアイラボで中島様夫妻、仁田夫妻、高島さんそして私と妻とで年一回北海道から九州の各地に旅行した。また、中島さんが NHK 技研からソニーへ転職されたいきさつの、野田岩のウナギで接待され最終的にソニー行きとなった話も紹介した。父 井深 大の求める気持と中島さんの情熱がソニーですばらしい成果をなし遂げたと思う。

✧ 茶谷 郁夫氏

写真 25　茶谷 郁夫氏

「スピーカキャビネットの鳴きの少ない物を作れないか」、との中島さんの投げかけに始まり、軽くて丈夫なものとしてたまご形状にたどり着き、黄金分割比　1 対 0.618 を使って、形的にも音響的にも素敵で意味のあるものに仕上げることができた。さらに、中島さんの“フルレンジで”の一言で振動板にも工夫を凝らしシンプルで音の良いスピーカを作ることができた。しかしここで手綱は緩まず、次々に課題を投げかけられた。

4.4. クロージング

✧ ご遺族の挨拶　中島 晃氏

写真 26　中島 晃氏（ご長男）

父 平太郎は長い間母のリードで体つくりに励んでいた。駒沢公園のジョギングも若いころから母と一緒に続けていた。高齢となり足腰が弱ってくるとウォーキングに切り替えて毎日駒沢公園を歩いていた。

2017 年 6 月の転倒骨折で入院したあと治ろうとする気力がすごかった。病院に早期退院を迫り、医師も驚いていた。退院後はリハビリに励み、駒沢公園の散歩も復活した。

亡くなる直前まで普通に生活していたが、12 月 8 日の昼前に歩行中、手を添えていた自分の腕の中で突然意識を失って崩れ落ち、救急入院したが翌日帰らぬ人となった。

✧ ∝のご挨拶　森 芳久氏

「オーディオの語源はラテン語 L.audire 、『聴く』。みなさん私の話を聞きなさい！」と始めたところ、それまでの会場のざわめきがぴたりと収まった。

品川無線から NHK 技研に出向しカートリッジの研究開発で大変お世話になり、若い自分が生意気なことを言っても、中島さんは自分を遠ざけることはせず、常に声をかけてくださった。その後縁あってソニーに入社する時、髪の毛を切らないという条件で入社したが、その時もソニー社内の調整に暖かい心遣いをしていただいた。中島学校の弟子を自認していたが、破門されてはまた弟子になることを繰り返した。中島さんがアイワに移られた後は、「あいは　こわれやすく」と言ってまた破門された。

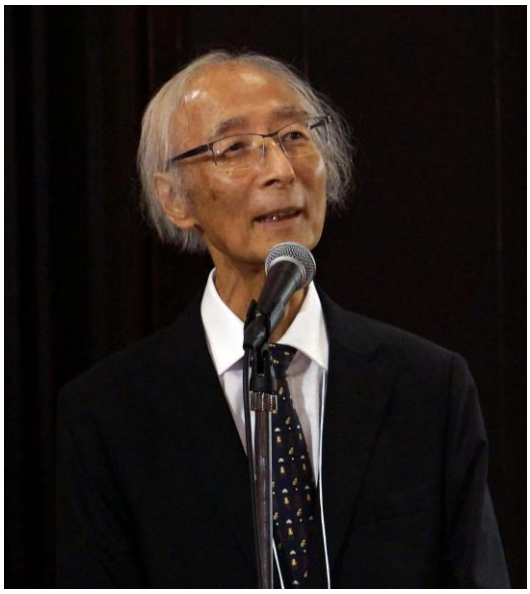

写真 27　森 芳久氏

5.　参加者の声

後日メールでいただいた参加者のコメントを紹介する。

✧ RK さん

中島平太郎さんの偉大さを改めて知らされた会に参加出来てとても良かった。
合計 10 年程スタート・ラボで平太郎さんの近くで仕事をしたが、知らなかったことがとても多いことを再認識した。

✧ HK さん

中島さんのかつての姿(写真ビデオ)はいつ見ても感動する。出席者の顔ぶれからも中島さんが音響のデジタル化の幕開けのエースとして不動の人であることを参加者は再認識できたと思う。

音響再生技術は HiFi システムにとどまらず、イヤホーン、小型オーディオ機器そしてマイクまで開発をされ続けたことに畏敬の念を覚える。

さらに音響開発と経営感覚のバランスを確実にお持ちだったことにも驚く。

みなさんのスピーチから誰もが中島さんの生徒だと思っているし、そう思いたいことがよく分かる。自分も中島さんのもとで仕事ができたことは無上の喜び。

✧ HH さん

出井氏は創業者時代のソニーから非創業者時代のソニーへと、大きく変化していく移行期に社長・会長職を勤められた方であったと認識している。そのような方が偲ぶ会の世話人をされているというのが意外で新鮮だった。中島さんが牽引された CD 開発という偉業が、後のソニーにとって極めて重要な事業として認識されていたと痛感した。

✧ TI さん

良い偲ぶ会でしたが、スピーチ時にざわついていた事もあり、全体に良く聞き取れなかった。高山さん、土井さんのスピーチ、特に残業時間での飲酒の件は平太郎さんらしい或いはソニーらしい（？）カルチャーとして印象に残っている。飲酒状態で会社に入っては規定違反だが、中で飲む分には規定されていないと言う屁理屈に自由闊達な研究開発の場があったと想像できるし、それがディジタルオーディオの開発成就に貢献したと思う。

息子さんのスピーチは亡くなられる前日の状況を淡々と説明され、平太郎さんがまさに天寿を全うされた様子が伺える内容で印象的だった。

✧ HN さん

太陽誘電の CD-R は中島さんの仕事としても、CD メディアの世界市場へ与えた影響としてもとても大きかったので、今回浜田 恵美子さんの CD-R についてのスピーチは大変興味深く聞いた。20 年ほど前に、CD-R に関するイベントの浜田恵美子さんの講演を聴いたことがある。自分は太陽誘電の有機色素 CD-R が開発される前は、反射率の低いディスクを仕事に使っており、読取用 CD-ROM ドライブの回路調整や改造が必要だったが、CD コンパチの CD-R が使えるよう

になりに助かった。

✧ TM さん
　驚くほど多くの人が参加され、改めて中島さんの人脈の広さと、人望の厚さを確認した。
　どのスピーチも心がこもって聞き入るものばかりで、特に NHK 技研時代の逸話は印象に残った。職業柄会場の PA 音声の明瞭度が気になったが、雅叙園の料理はなかなのものだった。

✧ KI さん
　「音の好きな連中がこれを機会に集まり旧交を温めて頂ければ嬉しいです」と壇上の写真から微笑んでおられたような、中島さんらしい素敵な会だった。
スピーチから、中島さんは誰にも分け隔て無く様々な状況でも直球で接してこられたことを知り、改めてその心の深さに触れることができた。

✧ ST さん
　中島さんの計り知れない知恵に支えられたオーディオの世界に、参列されたソニーOB の方々、そしてその知恵のお世話になった方々の楽しかった思い出話の数々、その中でも森芳久さまスピーチには中島さんのご指導やご活躍の全てが入っていると思った。

✧ KK さん
　会場入口と会場正面の写真のセッティング、そして CD 型のコンテンツ案内が、中島さんらしくてセンス良いなと嬉しかった。
　スピーチは、中島 晃氏からのご最期の様子や森芳久氏のお話がうるっと来るくらい心に残った。「野田岩の鰻、ごちそうになっちゃったから」と、憧れの店名が出たのにも感激。

✧ KO さん
　何年ぶり、何十年ぶりに会った人たちと話しがはずんでしまい、スピーチを全然聞いていないというのが実態。中島さんがいろいろの方に合わせてくれたと感謝。テーブルでの着席者の割り当てなど細やかな考慮に担当された方々の苦労がしのばれる。

✧ TS さん
　NHK 時代からの信条、良いアイデアは酒の席で発案される。お酒とは縁の切れない中島さんだったことを思い返す。上司からの業務命令をこなしつつ、自分のやりたい研究を進める、それが開発の基礎になっている。中島さんと関わった人達に将来に向けての開発を前向きに考える事が責務になるように上手く誘導した。

✧ SY さん
　とても良い偲ぶ会だった。お茶目で、まじめで、明るくて、率直な平太郎さんの人柄が彷彿する。スピーチをした人も皆平太郎さんが好きだったことがよく分かる。

ソニーだけなく、オーディオ協会や NHK 技研ほかからの参加者がいてよかった。同席した JH さんも昔のソニーが感じられてよかったと感激していた。

✧ KE さん

とても良い会だった。オーディオの今を作ったソニーの多くの懐かしいレジェンド達に再開出来たのは、中島さんのお導きだと思う。最初の上司土井氏と、森氏のスピーチが印象的だった。

✧ KT さん

先輩たちの同窓会のような感じで、中島さんもきっと喜ばれておられると思う。

中島さんがどなたにも平等に接し、かつ率直に議論するエンジニア魂を根幹に持たれていることは、我々エンジニアには何より勇気づけられることだった。会全体の雰囲気はたいへん和やかで良かったが、スピーチの多くが話声であまり聞こえなかったことが残念だった。

✧ MY さん

会場入り口と会場中央に飾られた中島平太郎さんの笑顔が素敵な写真が特に印象に残った。

みなさん、中島さんとの逸話やオーディオの話になると目を輝かせてとても楽しそうに歓談されていた。各テーブル内でも新たな親交を深めるシーンや知り合いを探してほかのテーブルを回る方も多くいて、中島さんを通じた人の繋がりをとても感じた。

✧ TK さん

昨年 12 月のプロマイクの仕事で出張した北京で訃報を知った。

ソニーグループやサウンド業界のイベントでは同席されないような OB の方々が、平太郎さんの名の下であれば一堂に会される、ということが今回の偲ぶ会で良く分った。日本のオーディオ界のゴッドファーザーに思えた。

会場には、入社のきっかけとなった学生時代の商品コンペ審査員の森氏を初め、これまでの自分の仕事で関係した重要な方々が勢ぞろいされていた。

中島さんから直接の薫陶を受けることはなかったが、諸先輩方を通じて間接的に中島さんのご指導を受けたと思っており、中島さんが切り開かれたプロマイクの仕事に今従事していることが感慨深い。

✧ SF さん

大変な数の参列者でびっくりした。200 人とか聞いたが本当か？

NHK の方もかなり参加されていて、これも中島さんのお仕事、人徳によるもの。太陽誘電の方も何人かいらした。CD 開発の初期メンバーの全部に会うことができた。

スピーチは最初の 3ー4 人は聞こえたが、その後は皆の雑談で聞こえなくなり、最後の数名がまた聞こえだしたという感じだった。あの声の通る土井氏ですら時々しか聞こえなかった。

特に印象に残ったのは中島 晃ご長男の話で、「やはり最後はそうだったのか」と思った。

✧ SM さん

出席者の多さと錚々たる顔ぶれに驚いた。特に中島 晃氏のお話は印象に残った。中島平太郎さんが骨折された後も、意欲的にリハビリに努めて最後まで現役復帰に前向きにチャレンジされていたことに、大変感銘を受けた。

✧ TI さん

デジタルオーディオのはじまりの物語、様々な技術者が「オーディオの入口から出口まで全部やる」との宣言の基に集結し、切磋琢磨していったお話しは今聞いても新鮮さを失っていない。全ての方々の力を集結する秘密を垣間見た気がした。

スピーチにあった、CD の真の開発功労者は誰か？という天外伺朗さんのテーブルでのお話しの結論を聞いてみたい。

技術のこれからの方向性として、健康と幸福につながる世界観を見いだしたいと願っている。オーディオ協会は、当時の瑞々しい技術開発の世界を、若い世代の方々に広く伝えていかれることを希望します。

6. 終りに

ご多忙中準備に奔走された世話人や係の方々、心暖まるスピーチをされた方々、資料の提供や編集作業を応援していただいた方々、全国各地から会へ参加された方々、後日貴重なコメントをいただいた方々、皆様の中島平太郎さんへの思いが一つに結集した偲ぶ会となりました。このような機会に恵まれたことを中島平太郎さんに感謝し、改めてご冥福をお祈り致します。

（注 1）(敬称、所属略)

- 発起人： 出井 伸之(代表)、井深 亮、氏原 淳一、卯木 肇、河野 文男、鶴島 克明、土井 利忠、盛田 正明、盛田 昌夫、校條 亮治、山﨑 芳男、山本 喜則
- 世話人： 高田 寛太郎(代表)、大久保 洋幸、小川 博司、小高 健太郎、川崎 博愛、君塚 雅憲、倉持 誠一、高島 充、高野 章、滝瀬 忠、田村 新吾、茶谷 郁夫、花島 満、広江 哲也、細尾 満、村上 佳裕、森 芳久
- 事務局： 照井 和彦
- 受付： 浅田 宏平、小室 弘行、今野 太郎、末永 信一、西尾 文孝、
- 司会： 大久保 忠彦、風間 道子
- カメラ： 平原 喜孝
- 記念品・写真集デザイン： 田村 進一郎
- 装花： 前田 悠衣
- VIP アテンダント： 塚部 香
- 写真・ビデオ提供：ビフレステック㈱（スタート・ラボ）、佐伯 多門、河野 豊
- ビデオ編集：江頭 康雄

・ 回顧録提供：日本オーディオ協会
・ 随筆提供： オーム社
・ 記念品講演録音の編集：田中 三一

（注 2）
・「音との付き合い 70 年（その 1）NHK に入るまで」、JAS ジャーナル　2016 年 9 月
・「音との付き合い 70 年（その 2）NHK 時代」、JAS ジャーナル　2016 年 11 月
・「音との付き合い 70 年（その 3）ソニー時代」、JAS ジャーナル　2017 年 1 月
・「音との付き合い 70 年（その 4）アイワ時代」、JAS ジャーナル　2017 年 3 月
・「音との付き合い 70 年（その 5）スタート・ラボ時代」、　JAS ジャーナル　2017 年 5 月
・「音との付き合い 70 年（その 6）ベンチャー時代」、　JAS ジャーナル　2017 年 11 月

（注 3）記念品　　CD をデザインした目録
・ 中島さんに関係する資料を NH ラボのホームページにアップし、そこからダウンロードして活用していただく方法で記念品を提供した。

目録
1. 写真集
2. 録音「中島平太郎さん　CDR について語る」
3. 「音を楽しむ」福岡県立明善高校創立 125 周年記念講演会資料
4. 随筆「他山に登る」、「音のゆらぎ」、「麻の中の蓬」、「ここにも黄金比」
5. 回顧録「親爺さんの背中を追って」
6. 回顧録「音との付き合い 70 年①～⑥」
7. NH ラボセミナー講演より抜粋

図 3　記念品　ブローシャ